

弘教寺 つづじ寺だより

☆ 発刊のことば ☆

弘教寺住職 中山 英昭



この度永年の懸案でありました弘教寺の寺報を発刊することができました。発刊に関わった壮年会、婦人会、その他の皆様にご心より感謝申し上げます。

寺というところは、ともしますと、敷居の高い場所、葬儀や法事を行なう場所と受け取られがちな面があります。仏様の経説は、生きていく私達に向けられたものであり、寺はその経説を多くの人々に伝える場所であらねばなりません。

創刊号



発行所 〒370-0131 伊勢崎市境米岡二七九-二 浄土真宗本願寺派弘教寺内 時報編集部責任者・玉田忠 電話〇二七〇(七四)〇五七三

今日の殺伐とした世相を見るにつけ、困迷する私達に、仏様のみ教えは、光明となつて、その道筋を照らして下さるものと確信しております。

寺報「弘教寺つつじ寺だより」で、仏様のみ教えや寺での活動、行事などを門信徒の皆様にお伝えすることにより、弘教寺をより身近な寺として感じていただければ有り難いことと思えます。今後は読者の皆さんのお声を寄せていただき、価値ある寺報となりますようお育ていただければと願っております。



弘教寺 つつじ庭園 写真①

☆ 発刊を祝して ☆

筆頭総代 栗原 由夫



門信徒皆さん

念厚く、常に前向きな姿勢で、何かとご尽力お力添えをいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、この度はまた図らずも、仏壯・弘婦諸活動のひとつとして、「弘教寺つつじ寺だより」創刊号が発刊になったことは誠に快挙であり、今後この紙上が情報交換、コミュニケーションの広場として、多くの皆さんに親しまれ愛され、大きく成長されることを念願して祝詞いたします。

仏教壮年会 コーナー

会長のことば 会長 貝塚 俊市



弘教寺仏教壮

年会は「門信徒

の皆さんが、気

軽にお寺に来て、話をしたり、聞いたり

して、相互の親睦を図りましょう」とい

うご住職のよびかけで平成九年九月、四

十一名の会員により発足し、現在会員は

四十六名で、再来年は十周年を迎えます。

年間六回研修会を開催、内一回は仏教

婦人会と合同研修旅行を実施しています。

研修の後は、会費制の食事会を行い、親

睦を図っております。

会員が気軽に集うこ

との出来る会ですので、

是非、ご参加してみ

下さい。



◆仏社会・仏協会合同企画 公開講演会◆

「講談 塩原 太助」(講談師 一龍齋 春水)

去る七月二十一日、の講談には百余名の

聴衆が参加し、約一時間半の熱演に感動し

ました。塩原太助は群馬県新治村の出身で、

江戸に出て、巨万の富を

築き「本所には過ぎたる

ものが二つあり、津軽大

名と塩原太助」と言われる出世物語ですが、

公共の為にも尽くしたその生きざまは現代

の我々にも、沢山の教訓を示しています。

「精だせば凍る間もなき水車」

み仏と多くの有形・無形の有縁のものに助

けられて生かされている我々は、太助さん

のように、わら屑一つも大切に、それ

を与えて下さった、あらゆるものに感謝し、

社会の為に尽くしていかなければならないこと

を学ばせて戴きました。写真⑤ (玉田 記)



☆弘教寺ゴルフ会開催 ☆

弘教寺仏教壮年会は本年度よりゴルフ愛好会

を発足、その記念すべき第一回のコンペを、五

月二十七日 上武ゴルフ場にて開催しました。

好天に恵まれ、四組十五名が日頃の腕前を競い

栄えある優勝は貝塚君雄氏で、七十九でベスグ

口優勝しました。次回は九月十五日を予定して

います。写真④

【貝塚さんの一言】

「皆さんと楽しくプレー

することが出来ました」



☆「東京・成勝寺」当寺を参拝 ☆

教区仏教壮年会記念日研修の懇親会で同席さ

れた成勝寺の皆様と、お寺での活動の話し合い

で懇親が深まり参拝のご招待にとり、それが

ご縁で六月一日に参拝がありました。

寺院活動・壮年会・婦人会・子供会などの、

お話し合いができ、これを、ご縁にお互の親交

が深まることを期待します。写真⑥・⑦



H17. 5. 5 子供の集い（春3回目）
「お寺であそぼう」に大勢の子供と若い
お父さんお母さんの参加で賑わいました



①

今年も庭のつつじが見事に咲きました



⑤

H17. 7. 21 一龍齋春水先生の講談「塩原太助」、
大変な熱演で本堂の大勢の聴衆を
感動させました



④

H17. 5. 27 弘教寺ゴルフコンペが行われました、
お天気にも恵まれ楽しい一日でした



⑥



H17. 6. 1 東京の成勝寺ご門徒41名の来訪を受け
仏壯・仏婦の活動状況を披露しました

仏教婦人会 コーナー

会長のことは 会長 福永 君代



弘教寺仏教婦人会は今は亡き
前住職様の仏教

婦人への教化をという、強い願いを受け昭和四十七年五月に発会しました。以来三十四年間休むことなく、月一回の例会に集い、今は亡き前会長の岩瀬様のおこ
とば通り、み教えをお聞かせ戴く場になりました。住職様、坊守様のご理解で、ご聴聞を中心にフラダンス・エコクラフト、コーラスをと活動し、今は新会員も増え、多くの先輩の地道な努力のおかげと感謝し、「世界はみな同朋」のみ教えのもと、会員一同が楽しく集い、み法の友の輪を広げ、心豊かに来年の三十五周年に向け歩んでまいりたいと思います。

◆ フラダンス同好会 ◆

☆ 「ユカレリ」活動の報告 ☆

わずか二回の練習で踊ったフラダンス

が若宮苑の人達に感動を与え、又来てね!

と輝く瞳で握手されると、私達も皆又来

て踊りたいね!と心が一つになりました。

それから三年、今も和気あいあい月二回

の練習を楽しんでいます。会員の親睦と

ビハーク活動への協力が何よりの喜びで

す。がんばりますのでよろしく!

☆ 「ビハーク」活動の報告 ☆

ビハークとは身も心も安らかにという

意味で、病床にある方やその家族と共に

生き励まし合っているとの願いの福祉

活動です。弘教寺もその活動を十数年間

続けております。現在は・高崎市上大類

の若宮苑に年四回、「法要・慰問」

などの訪問活動を続けています。



平成17年度役員紹介

仏教婦人会										仏教壮年会																					
顧問	組運営委員	書記	監査	会計	副会長	会長	事務局	顧問	監査	会計	幹事(企画)(広報)	会計	副会長	会長																	
菱沼 幸子	矢沢 あき子	平田 ふさ子	中山 ハル工	坂井 サク	瀬古 規子	野水 孝子	福永 君代	佐藤 静枝	玉田 美佐子	浅田 くに枝	小此木 節子	泉 昌子	倉林 昌子	瀬古 規子	野水 孝子	福永 君代	吉田 武正	池田 正良	栗原 由夫	伊部 芳夫	田中 鐵郎	神戸 幸雄	西戸 正裕	浅田 豊二	田中 岩男	佐藤 吉一	橋本 勝	泉 勝利	小林 長三郎	玉田 忠	貝塚 俊市

第三回・子どものつどい・春

☆ お勤めでのご住職のお話

「命の重さ・仏様のはかり」と

紙芝居「五百人目の子ども」は

興味深く心に残ったことでしょう。

☆ 作って遊ぼうのコーナーでは

新聞紙の折り紙で遊びました。昔懐かし

い兜をかぶって紙鉄砲を鳴らし、新作の

グローブやミット、ボールを折って、つ

つじ満開の庭で親子や友達同士キャッチ

ボールを楽しみました。破れたら、また

作って遊ぶ、本来の子どもの遊びの世界

が見られました。☆ 座敷では、先生の

立てたお抹茶をお運びするのも頂くのも

子どもたち。その中にスタッフやおうち

の人の気配り手配りが相まって、静と動、

和やかな春爛漫の集いと

なりました。写真②・③



読者コーナー

私どもでは、過日法要を営ませていただく

ことがありました。本堂で、ご住職より懇切

な法話を拝聴いたしました。「人に死は訪れる

が人はまた生きたいもの」との趣意でした。

法悦にひたるものでした。その節、ご住職よ

り弘教寺の今日の創造活動のとりくみをお聞

きました。婦人の日常活動に、子供達への

健全生活に、高齢者への励ましにと、中広い

ものでした。また、演劇や音楽鑑賞の企画も

ありました。私は、かねてより、演劇を見て

楽しむ地域の活動に携わってきました。

弘教寺を発信の拠点として、充実されてい

くことに、連帯の感動を覚えました。

「門信徒 杉本 仁八さまより」

つつじ寺だより、ご覧の皆様

のご意見・出来事・ご質問などを

編集部へお寄せ下さい



これからの行事予定 (8月~12月)

⑧ 月	■ 19日 仏教婦人会	例会
	■ 20日 子どものつどい・夏	紙芝居・クイズ・ゲーム
⑨ 月	■ 11日 仏教壮年会	正信偈の勉強会
	■ 29日 仏教婦人会	講師 田中朝夫師
⑩ 月	■ 19日 仏教婦人会	例会
	■ 23日 仏壮・仏婦合同研修	研修旅行
	■ 24日 仏壮・仏婦合同研修	(1泊2日)
⑪ 月	■ 18日 仏教婦人会	例会
⑫ 月	■ 3日 仏壮・仏婦合同報恩講	フィロソフ・瀬越憲氏
	■ 4日 報恩講法要	

≪編集後記≫

皆様のおかげで「つつじ寺だより」が発刊できま

した。読者の皆様が次回号を楽しみにされるよ

うに、お寺と門信徒が一体で、ご法話、行事と

皆様の、ご意見、出来事などの内容に心がけて

「つつじ寺だより」を育てたいと思います。「M・H」